

「我が家のきまり」はありますか？

各家庭で行われているしつけは、子どもたちが社会で生きていく上で必要なこととして、代々親から子へ受け継がれている大切な財産であることは言うまでもありません。しかし、我が子のためにと躍起になって強く言うまでもなく、いらいらしてしまうことも少なくないと思います。このような時は、親から子への一方通行となっている場合が多いようです。そこで、しつけたいことの一部を、子どもと話し合い、我が家のきまりとして家族全員で取り組んでみてはいかがでしょうか。

長崎県で行われている『ココロねっこ運動』では、「朝は気持ちの良いあいさつをする」「家の仕事はみんなで分担する」「食事の時は、テレビを消す」「テレビは、観たい番組を選んでみる」などのきまりを大人も子どもも一緒に取り組み、大人が自分の姿で子どもに示すことで成果をあげています。

小さな生活自立や社会性を身に付けるためのしつけですが、これを機会に、きまりは締め付けるためのものではなく、みんなが楽しく生活するためのものであると感じさせてあげたいものです。



11月は「全国青少年健全育成強調月間」です

「うれしい種」を蒔きましょう

八戸市教育委員会 教育長 松山 隆豊

○「変わらない」ことが学力日本一の秘密

全国学力学習状況調査で秋田県が2年連続日本一となりました。なぜ、秋田の子どもの学力が高いのかを、秋田大学の浦野弘教授がある新聞のインタビューの中で、「秋田では、『変わる』ことでなく、伝統的に受け継いできた生活環境、習慣が『変わらない』ことで学力を高め、維持してきた」と述べています。具体的には、「朝食を毎日食べる」「決まった時刻に就寝、起床する」などリズム正しい安定した生活習慣が学力に良い影響を与えている。また、都市部では急激な生活環境の変化などにより、学力低下や学力格差の拡大が起こっているが、秋田には以前とあまり変わらない、昔のよき学校とその周りの人間関係が残っている。即ち、かつて日本では当たり前だった学習環境と生活習慣が、今でも学校と家庭が連携して守り続けていると言うのです。



私は平成 19 年度の“かがみ”「心の教育は“ヨソ様”の拡大から」の中で、人間愛の原点である「他者のまなざし」の存在する“ヨソ様”社会を拡大したいと述べました。物質的な豊かさの中で、日本人が築いてきた素晴らしいものが失われていく事への危機感からでした。青少年の規範意識などが問題とされている今、その解決策を秋田の秘密が教えているように思います。

○ **全ての大人は、かつてみな子どもでした**

私たち大人は、かつてみな子どもでした。これは当たり前のことですが、普段はあまり意識されることはありません。しかし、子どもたちと向き合うときに“まだ子ども”から“将来の大人”へと視点を少し変えると違った方向が開けてくるように思います。これまでの自分の歩みを振り返ってみると、乳幼児期から児童期を経て中・高校生期の嵐のような思春期を乗り越えながら一步一步大人になりました。時には優しい愛情に包まれ、時には厳しい壁にぶつかりながらもその時々々の発達課題をクリアしてきました。その中で、大人のひと言にうれしくなったり、勇気付けられたり、あるいは奮起したりとさまざまなことも体験してきました。そして今、かつて子どもであった私たち大人が、将来の大人である子どもたちを前に、何をしてあげられるか、自分の体験を通して考えてみてはどうでしょうか。

○ **きちんとしかろう！ちゃんとほめよう！**

私たちは心と身体が大きく変化する大揺れの思春期を乗り越えて大人になりました。この時期は、父や母からの心理的離乳、自我の目覚めなど「独り立ち」に向けての基礎が固まる時期です。この思春期の荒波を乗り切るためには、その前の時期（前思春期 0～12 歳ごろ）に十分な親の愛情を注ぎ、社会的なルールへの基本的な心構えを育てることが大切です。特に、小学校中学年ごろからは、本格的な社会行動の規範を学ぶ時期ですので、“まだ子ども”と思わず“将来の大人”として向き合うことが必要です。

「きちんとしかろう。ちゃんとほめよう。」という広告をご存知だと思います。大人と子どもが電車の中で足を組み、携帯電話を操作している写真のあれです。「困った大人にしないために・・・我が子をこんな大人には、したくない。だから、子どものうちに悪いことは、きちんとしかる。良いことは、ちゃんとほめる。・・・『大切にされている』、そう感じたとき、子どもの心は育つものです。」とありました。これこそがかつて子どもであった大人が、やがて大人となる子どもに、今しなければならぬことではないでしょうか。

○ **「うれしい種」を蒔きましょう**

7月に文部科学省が「親子でつくろう我が家のルール」標語の優秀作品7点を発表しました。その中の一つに「がんばったね。できたね。よかったね。うれしい種があつまったね。」（栃木県小2江波戸智也さん作）がありました。子どもは、認めてあげれば自分を好きになる、褒めてあげれば明るい子に育つ、愛してあげれば人を愛することを学ぶといえます。子どもたちが自分の力で伸びていけるよう、みんなで子どもたちの心に「うれしい種」を蒔いてあげましょうよ！

「あいさつで、心の種に 水をまく」

（あいさつ運動啓発標語優秀作品：新井田小学校5年塚野楓さん作）

